

平成28年度 東大阪環づくり会議概要

日 時	平成28年11月14日（日） 午前10時から12時まで
場 所	市役所総合庁舎 22階 会議室
議事内容	
1. 開 会	
2. 東大阪環づくり会議等について	
○第2次環境基本計画における環づくり会議の位置付けや役割、本日の会議の進め方を説明	
3. 各団体等における環境活動の取組状況等について	
○各自分かれてワークショップ	
4. 発 表	
○Aグループ⇒Bグループ⇒Cグループ⇒Dグループの順に発表	
○久先生より講評	
5. 閉 会	

## 発表内容

### 【A グループ】

---

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

#### 『ごみ』

- ・ごみの分別
- ・ごみ分別についての研究
- ・分別の種類が少ない

#### 『環境』

- ・ごみがよく落ちている
- ・川が汚い
- ・緑が少ない
- ・5年、10年先の未来を考えた環境の変化
- ・自然素材と化学原料の組み合わせ
- ・水の節減
- ・都市部の野生動物の再生

#### 『エネルギー』

- ・3.11をふまえエネルギー問題をどうするか
- ・省エネ、創エネ器機の提案
- ・エネルギーの見える化
- ・地域食材の購入
- ・地下資源に代わる原材料対策

#### 『行政』

- ・市の具体的な行動がわからない
- ・環境教育
- ・環境行動を一般化する

<課題・問題点>

#### 『ごみ』

- ・オーバーパッケージ
- ・環境を意識するきっかけを増やす
- ・自然環境への産官学からの取り組み

#### 『エネルギー』

- ・研究開発資金

#### 『行政』

- ・子育て世代の意識改革

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

『ごみ』

- ・意識するきっかけづくりとして何か面白い催しを行う
- ・買い取り制度を導入する
- ・自治会等を上手く利用する

『エネルギー』

- ・国の補助金
- ・行政が率先的に推進する

『行政』

- ・ネットワークづくりを図る

内容のまとめ

A グループは全く異なった活動を行っている方々が集まったので、それぞれの視点でディスカッションを行うことが出来ました。また4人中2人が他県出身の方だったので、東大阪市と比べてどうであるかという話を聞くことができたと同時に事業者の方から、企業での具体的な活動内容についても意見を聞くことができましたので、それぞれの団体の方々が良い情報を分かち合うことで活動の参考になったのではないかと考えています。

次世代を担う子供たちを第一に考え、これから豊かな環境を引き継いでいくためにも若い世代との意識の共有を図っていければと考えております。



## 【B グループ】

---

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

『ネット』

- ・通販での過剰包装

『交通』

- ・急発進・急加速する車が多い
- ・アイドリングしている車が多い

『害虫』

- ・生駒山の木々が枯れている
- ・地球温暖化による害虫の増加

『自然』

- ・川が汚い
- ・空気汚染調査
- ・病気の増加

『企業』

- ・環境に配慮できていない企業がある

『美化』

- ・ごみが多い
- ・煙草のポイ捨て
- ・ごみの出し方が悪い

『動物』

- ・けむしが多い
- ・ネコ等の動物問題

『農業』

- ・都市農業の関心が低い

<課題・問題点>

『ネット』

- ・ごみが増える

『交通』

- ・駐車場が少なく、路上駐車が多い

『害虫』

- ・お金がかかる
- ・二次災害など予想できなかった問題が増加
- ・山の木が枯れていることを知ってもらう

『自然』

- ・糞尿による建築物の被害・劣化

『企業』

- ・企業による悪臭・騒音

『美化』

- ・ごみ箱が少ない
- ・マナーの問題
- ・歩きたばこをやめさせる

『農業』

- ・農業の関心を高め、認知してもらう

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

『ネット』

- ・企業の意識を変える

『交通』

- ・駐車場、駐輪場の整備
- ・駐車禁止エリアを増やす

『害虫』

- ・森林保全の補助金を出す
- ・ワナなどをしかける

『企業』

- ・苦情が多い企業に指導を行う

『美化』

- ・啓発活動をする
- ・エコバッグの配布
- ・ごみの分別の徹底

『動物』

- ・手を加え管理をする
- ・去勢を行う

『農業』

- ・イベントを実施
- ・有機野菜を食べる
- ・若者向けキャラクターを作成

### 内容のまとめ

Bグループでは、大学で環境や農業を勉強されている学生や市民活動をされている女性の方が集まり、それぞれの取り組み内容が話し合われました。生駒山の「ナラ枯れ」問題や都市農業への関心が低いことを危惧しているといった意見に対し、それらを調査している学生の研究内容などが発表されるなど、活発な議論が展開されました。

これらの課題を解決するため、環境問題の啓発活動を進めることで市民や企業の意識を変え、マナーの向上に努めていきたいと考えております。



## 【C グループ】

---

### ○命の輝き共生の森推進協議会

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

- ・中環の森を楽しくきれいにするために第2・第4土曜日に活動
- ・生物の育成のための環境作り（ビオトープなど）
- ・樹木・花への散水
- ・花壇作り・緑化活動
- ・緑地内の除草
- ・活動地域内のゴミ拾い
- ・地域の子どもたちとの交流（祭りを行うなど）

<課題・問題点>

- ・作業道具の管理（数が不足している）
- ・作業が重労働
- ・夏季の散水が日々必要になる
- ・ゴミ・タバコのポイ捨て（車からゴミを捨てる人が多い）
- ・ゴミを拾う際の人員が少ない
- ・犬の糞の放置
- ・環境に対する意識が低い
- ・ボランティアで活動をしているため、人の参加が不安定
- ・活動においての人数不足

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

- ・マナーの向上（アピール看板の設置）
- ・学校と市民活動の連携
- ・ボランティア活動の教育
- ・東大阪のエコ活動マップの作成
- ・エコの市民活動を増やす
- ・市政だよりで環境活動をアピール

○大阪産業大学 エコ推進プロジェクト

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

- ・大東大清掃
- ・淀川ワンド清掃
- ・アドプト・リバー（鍋田川にて）
- ・エコ学園祭
- ・恩智川清掃（カヌーに乗っての清掃）
- ・大阪南港エコフェスタ
- ・キャンパス緑化
- ・小学校での環境教育
- ・他団体との交流会

<課題・問題点>

- ・タバコポイ捨て
- ・清掃時の人数不足
- ・ゴミ箱の不足
- ・鍋田川に不法投棄
- ・ゴーヤの植え方の知識
- ・花の植栽の種類の少なさ
- ・エコトレイのフィルムの剥がしにくさ

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

- ・歩きタバコ禁止
- ・恩智川についてカウンセラー協会と協力する（人員不足解消）
- ・キャンパスの緑化のための知識・経験を身に付ける  
（水のやり方・虫が寄らないようにする方法など）
- ・ゴーヤは間隔を空けて植える
- ・プランターにて花の種類を増やす
- ・パンフレット等を用いてあらかじめエコトレイのフィルムの剥がし方を説明する



○環境カウンセラー協会（松浦陽子氏の他の活動も含む）

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

- ・ 恩智川のクリーンUP
- ・ 恩智川の菜の花
- ・ 食器の物々交換
- ・ 東大阪市民フェスティバル
- ・ アドプト・リバー加納
- ・ 「悠友塾」環境コース講師
- ・ 地球温暖化防止の研修、啓発
- ・ 大気汚染の原因研修
- ・ 生活排水の啓発
- ・ エコクッキング
- ・ ゴミ0作戦
- ・ 水辺の<sup>がっこう</sup>楽校（小学校5年生に対しての活動）

<課題・問題点>

- ・ 東大阪全域の美化（ラグビーワールドカップ開催に向けて）
- ・ 室外での喫煙マナー
- ・ ペットのマナー（室外で運動させ、室内で排便・排尿をさせなければならない）
- ・ もったいない精神が足りない

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

- ・ 市役所に各種団体の横のつながりをまとめる部署を作る
- ・ 市役所に掲示板を設置し、それぞれの活動の内容を把握できるようにする
- ・ 室外での喫煙禁止
- ・ 豊かさについて見直すことでもったいない精神を大事にする
- ・ 地球温暖化防止について
  - ①節電等により光熱費半減
  - ②不必要に車に乗らない（徒歩、自転車の利用）
- ・ グリーンカーテンを進める
- ・ 生活排水の意識向上
- ・ 自分の出したゴミは自分の責任で持ち帰る
- ・ 啓発をする機会を増やす
- ・ 市内全域で月一回清掃活動を行う
- ・ マナー違反をしている人を見つけた時に気がついたら声かけをする

### 内容のまとめ

各団体において活動についての課題に共通する部分が多く、解決方法を分かち合うことや、補完できるのではないかと感じております。また場所は違いますが、同じ恩智川で2つの団体が同様の取組みを行っていますので、連携が可能ではないかと考えております。今日をきっかけにお互いのノウハウや知識の共有を図ることで各自の課題を解決し、よりよい環境活動を進めていきます。



## 【D グループ】

---

<環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組>

### 『緑化』

- ・ 植樹活動
- ・ 市街地の中の緑の保全
- ・ 花の種や苗木の配布
- ・ 菜の花作り

### 『環境の保全』

- ・ 豊で優しい人間を形成するため、子どもへの自然、環境教育
- ・ 中間の森の維持管理
- ・ ビオトープ作り
- ・ 歴史的環境の森作り
- ・ 風力発電の設置
- ・ レジ袋をもらわない活動
- ・ 地域の動物を守る会

### 『教育』

- ・ 小学校での環境出前授業（温暖化、再エネ）
- ・ 屋敷林の植生を使った勉強会
- ・ 学習障害の子ども育成
- ・ 留守家庭の児童育成
- ・ 児童、成人の悩み等のカウンセリング

### 『清掃』

- ・ ごみ拾い
- ・ 幹線道路等での清掃活動

### 『文化』

- ・ 芝居を通じて東大阪の文化を支える
- ・ 東大阪在住の文化人と地域のかかわりを支える

<課題・問題点>

### 『共通』

- ・ 活動資金を確保できない。
- ・ 活動を市内全域に周知することが困難
- ・ 環境活動に取り組む人の高齢化

### 『緑化』

- ・ 種、苗の配布に対して需要が少ない。
- ・ 緑地の保全活動に要する知識、理解のある人材が少ない。
- ・ 周囲の住民の理解が得られない。
- ・ NPO、行政、各種学校の連携が出来ていない。

### 『環境の保全』

- ・レジ袋を受け取らない活動で、意識が浸透していない。

### 『教育』

- ・出前授業を実施する講師の育成
- ・自然を大切にしながら動物との共存を大切にする。
- ・場所の確保

### 『清掃』

- ・マンパワーが足りない。

<課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容>

### 『共通』

- ・周知の徹底（冊子、HP、市政だより）
- ・財政的な援助

### 『緑化』

- ・グリーンベルトのマスタープランの作成
- ・人材育成と行政の援助
- ・市民と行政の協働強化

### 『環境の保全』

- ・環境活動のPRを実施（冊子、HPなど）
- ・エコポイントの創設
- ・資源を活かした催しを実施し、地域の人との交流を深める。

### 内容のまとめ

Dグループでは、子どもを対象とした取り組み、屋敷林の保全活動、中環の森推進活動や関西電力で環境活動している方々が集まり、取り組み内容を発表しました。共通する課題として、様々な活動を実施しているが、市域全域や広く市民に広報することの難しさや担い手が高齢化しており若い世代に取り組みを引き継ぐことの厳しさ、活動するにあたって資金や場所の確保が困難といった話がありました。また、今米緑地につきましては、都会の中に緑地を確保することは重要であるが、周囲の住民の理解が得られないといった課題もございました。解決策として、広報や活動資金、場所の確保については、団体、行政、企業等との連携を強化すること、また緑地・緑化活動については、点で取り組むのではなく、線や面で取り組む必要があるのではないかといった意見が出ました。



## 久先生講評

---

今日、始まる前にみなさんのお話を聞く中で、この会議 6 回されているが効果があったのかというシビアなご意見を頂きました。確かにそうだと思います。前回のまとめを配らせていただいておりますが、みなさんのお話を聞いてコメントさせていただく内容もかなり前回にも同じような話をしております。ということはこの一年間でまだ何も進んでいないことがたくさんあるということです。それをどうするかという問題をまずみなさんと一緒に共有したいなと思っています。

誰かに何かをやってもらう、人の心を変えたり人を動かすということはなかなか難しい訳です。まずは自分が今日をきっかけに何ができるかということがスタートではないかなと思っています。みなさんの発表の中で過剰包装の話が出てきましたけれども、私事です、私はエコバッグを持ち歩いております。では、この中で本当に毎日エコバッグを持ち歩き、使ってらっしゃる方がどれだけいるのか？手を挙げていただきませんが、持っていない方は今日から、明日からエコバッグを持って動いていくということがあれば、少しずつエコバッグを持つ動きが増えてくるかと思っています。さらに特にC班の発表にあったように、人手不足・人材不足が各団体の抱えている共通の話題である、そうすると今まで別々にやっていたことを一つに重ね合わせて行くと、その互いの課題が解決できるのではないかという話が出ました。これも早速明日から何か一緒にできることがあったら、やってくだされば、少しずつここで集まったきっかけが具体的なものになっていくと思いました。

もう一つみなさんのお話を聞きながら、考えさせていただいたところでいいますと、子育て世代という話が出ましたけれども、これも前回にお話をしていのですが、実は案外 20 代・30 代・40 代は地域活動や環境活動に熱心な方が増えてきています。にもかかわらずどうして今までの団体さんから顔が見えないかということ、やり方が違うところがあります。これは A 班の中でも出てきた話ですけれども、「面白く」とか「恰好よく」とかそのような形でやれば、20 代・30 代の若い方ももっと参画できるし、今日来て頂いている大学生の方はどちらかということ環境に熱心な方に来て頂いていますけれども、そうでない学生にどうやって伝えるかということ「面白い」とか「恰好よく」がキーワードかなと思っています。

少し情報提供も兼ねてお話をさせていただきますが、最近 10 月末になると各地でハロウィンパーティーが盛んになってきました。日本で一番人が集まっているところは渋谷ですが、今年「ハロウィンごみゼロ大作戦 in 渋谷」というものが行われました。見事に今年の渋谷はごみがほとんど出ないというハロウィンをしました。これはやはり「お洒落に恰好よく」というところと重なってくるかと思っています。ハロウィンが深夜まで続きますけれども、その後早朝にごみ掃除部隊が出てきて掃除して下さることによって、ハロウィンがごみゼロになり、近所の方にご迷惑をかけないようにいろいろな仕掛けを最初からやってきた訳です。例えば、トイレで服を着替えないように着替えるブースをちゃんと用意して下さるといったことでハロウィンという一つの一大イベントをいかにごみゼロ、

環境美化に繋げていくかという取組みが実際に行われました。この辺りで言いますと、祇園祭がもう既にごみゼロの祭りにしようじゃないかということで動き始めていますし、2019年花園ラグビー場にワールドカップがやっけてまいりますので、これをきっかけにワールドカップラグビーをごみゼロにできないだろうか、と考えた時にそのためにはもう動いておかないといけない訳です。そこで参考になることがガンバ大阪です。ガンバ大阪がホームグラウンドで試合をする時は、追手門学院大学の学生さんの手を借りながら、すべてごみは分別で回収をしております、ごみステーションをスタジアムの中に10箇所作りまして、そこでは必ず分別をして捨てるようことをやっています。これは追手門学院大学の学生から提案があって、ガンバ大阪がそれに乗ってくださったというたった二つのグループ、追手門学院大学の学生グループとガンバ大阪という企業が動くことによって分別回収ができるサッカーの試合が既にここ数年行われています。そうなってくると例えば近鉄とタイアップするとかあるいは全国高校ラグビー大会の実行委員会とタイアップしながらすべての試合をこれから分別回収ができるような形で展開する、それを市民側で誰がうまくタイアップして毎回そのような形で人を送り込んでくださるかということも考えていかなければいけないですけども、それがうまくいけばラグビーの試合もガンバ大阪と同じように分別回収のごみゼロの試合にできるのではないかなと思いますので、それを後3年続けていくと見事にワールドカップラグビーの試合の時もごみゼロの試合ができるといったシナリオをみんなで描いていければと思っています。

冒頭にも申し上げましたが、今日みなさんと一緒に提案したものが一つでも二つでも実現して来年集まった時にはこれができるよという報告から入りたいなと私も改めて感じさせていただいているところでございますので、一人で何ができるか、そして団体として何ができるか、そして市民全体で何ができるかという順番で私も一緒に考えさせていただければと思っています。私の立場としてはもう一つは近畿大学として何ができるかということも明日から考えさせていただきたいなと思っていますので、来年集まる時は一つでも二つでも前向きな報告ができるように努めさせていただければと考えております。



## 事務局まとめ

---

日頃は本市の環境行政にご協力を頂きまして、ありがとうございます。今年度の環づくり会議は、近畿大学総合社会学部の久先生をお迎えし、過去に東大阪市豊かな環境創造基金の補助金を受けられた団体や近隣大学の学生さんに声かけをさせていただきまして、環境について日頃から感じていることや各自行っている活動や取組とその課題・問題点の抽出、課題を解決するために今後取り組みたい、取り組むべき内容についてA B C Dの4グループに分かれ、ワークショップ形式にて議論を頂きながら進めてまいりました。

Aグループでは、『ごみ』や『緑化』、『エネルギー』、『環境教育』などの問題を同じ団体に所属するメンバーがグループにいないということもあり、様々な視点から意見を出し合っていました。特に印象的だったのは『ごみ』の問題の課題として挙がっていた【オーバーパッケージ】のお話で、インターネット通販等で購入した際に品物と比べて包装があまりに多く、『ごみ』になってしまっているケースがあり、発表にあった『ごみ』の買取によってごみ減量を推進するという話を大変面白く聞かせていただきました。

Bグループでは、大学で専門的に勉強をされておられる学生がいらっしまったこともあり、研究分野である自然環境を中心とした議論が進められました。専門的な知識を普段からみなさんがされておられる活動の内容とリンクさせることにより、より幅の広い取組を展開できる良い事例になるのではないかと感じました。

Cグループでは、命の輝き共生の森推進協議会・大阪産業大学 エコ推進プロジェクト・環境カウンセラー協会という3つの団体の取組みの課題や改善策について話し合いを行いました。エコ推進プロジェクトと環境カウンセラー協会では恩智川の清掃、また命の輝き共生の森推進協議会とエコ推進プロジェクトは緑化というように活動の共通点があることから、課題の解決策についての共有が非常にスムーズに進みました。早速メンバー同士が連絡先を交換するなど、今後の連携が進んでいくことが期待できる今回の会議になったのではないのでしょうか。

Dグループでは、『子どもを対象とした取組み』、『屋敷林の保全活動』、『中環の森推進活動』や『関西電力で環境活動』に関し取組み内容の発表があり、行政・事業者・市民の連携の強化についてのご意見をいただきました。行政としても豊かな環境創造基金やこの環づくり会議を通じて、活動のサポートを継続していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしたいと考えております。

最後にご講評いただきました久先生のお話の中にありました、「ハロウィンごみゼロ大作戦 in 渋谷」及び追手門学院大学とガンバ大阪が行っておりますごみ分別の啓蒙活動につきまして、別紙にて参考資料を添付させていただきます。中でも追手門学院大学とガンバ大阪の行われた活動は平成28年度おおさか環境賞の「奨励賞」を受賞されておられますが、今回の会議に参加をいただいております(命の輝き共生の森計画推進協議会は府民活動部門

の「準大賞」を受賞されておられますことを併せてご紹介させていただきます。事務局としても今後みなさまが取り組まれておられる活動がよりよいものとなるよう、支援を続けてまいりますので、よろしくお願いいたします。